

トーク・講演会

AAIC2023審査員によるクロストーク “「リアル」のゆくえ”

岩崎 審査員・北村 審査員・森村 審査員

それぞれの世界観で見る“「リアル」のゆくえ”を
 討論していただきます。

4月30日(日) 14:00～15:30

審査員／アーティスト・研究者

岩崎 秀雄

4月30日(日) 14:00～15:30

審査員／ダンサー・振付家

北村 明子

4月30日(日) 14:00～15:30

審査員／美術家

森村 泰昌

AAIC企画委員によるキューブツアー

AAIC2023の企画運営に携わるAAIC企画委員が、14のキューブを巡りながらAAIC2023の見どころや楽しみ方をご案内します。

5/19(金)・6/16(金)

各日18:00～19:00(夜間開館日)

AAIC2023入選作家によるワークショップ

小孫 哲太郎

目隠し食育陶芸体験

目隠しをして、普段とは違う感覚で土をさわって自分のオリジナル器を作ってみよう。ざっと、食べることや器をつかうことに新しい発見ができるよ!「LET'S TRY」

4/23(日) 13:00～16:00

奥中 章人

超巨大! 透明な風船にお絵描き!

あなたは空気に絵を描いたことはありますか? 巨大な透明風船の中に入って、絵の具で絵を描いてみよう。

5/5(金・祝) 13:30～15:30

北川 純

ダンボール箱を作ってみる。

ダンボール工作をしたことがある方は多いと思うけど、ダンボール板からダンボール箱を作った事がある人は意外と少ないかも。という訳で、あなたのオリジナルダンボール箱を作ってみよう。

5/14(日) 13:30～15:30

florian gadenne + miki okubo

大きな／小さな生き物?!

視点を変えればおもしろい

自然や都市の風景の中に、尺度を変えて大きく／小さくなった動植物を描いてみよう。

5/20(土) 13:00～16:00

古屋 崇久

橋を渡ろう!

岐阜県の美しい川の如く美術館の庭園には川が流れています。川を挟んで2グループに別れ、木材を麻紐で組み合わせて橋を作って、川の上で握手しよう!

5/28(日) 13:30～15:30

千葉 麻十佳

太陽がなくなったら

もし、太陽が今この瞬間になくなったら、最後の光が届くまでの“8分19秒”のまだ明るい間に何をしますか。「一番大事な人に会う」「最後の日光浴をする」等々、みんなで考えてみよう。

6/18(日) 13:30～15:30

Artist IN THE CUBE

AAIC2023入選作家が各キューブに“在廊”し、作品の見どころを紹介します。

4/22 (土) 15:30～17:30

身体企画ユニット ヨハク ライブパフォーマンス

ヨハクが展示するキューブにてライブパフォーマンスを行います。ヨハクが考える“「リアル」のゆくえ”のパフォーマンスをご堪能ください。

4/22(土)・23(日)、5/6(土)・7(日)、6/10(土)・11(日)

4/22(土)15:00～・17:00～ その他の各日11:00～・13:00～・15:00～・17:00～※(各回10分程度／※17:00～は土曜日のみ)

※プログラムの内容等は予告なく変更になる場合もございますのでご了承ください。
 ※その他、岐阜県美術館ではさまざまな展覧会、イベントの開催を予定しています。詳しくはホームページをご覧ください。

【アクセス】

●JR「西岐阜駅」下車 徒歩約15分

●JR「岐阜駅」、名鉄「岐阜駅」下車 タクシーまたは岐阜バス

※【鏡島市橋線】JR岐阜駅前(6番乗場)または、名鉄岐阜駅前(1番乗場)→バス乗車15分「県美術館」下車

■会場／岐阜県美術館(岐阜県岐阜市宇佐4-1-22)

■開催期間／2023年4月22日(土)～6月18日(日)【入場無料】

■開館時間／10:00～18:00[入場は17:30まで]、4月22日(土)は14:30開場

■夜間開館日／5月19日(金)、6月16日(金)は20:00まで開館[入場は19:30まで]

■休館日／月曜日[月曜日が祝日の場合はその翌平日]

【主催】清流の国ぎふ芸術祭 Art Award IN THE CUBE 実行委員会、岐阜県

【お問合せ先】清流の国ぎふ芸術祭 Art Award IN THE CUBE 実行委員会事務局

〒500-8570 岐阜県岐阜市藪田南2-1-1(岐阜県県民文化局文化創造課内)

TEL 058-272-8378 FAX 058-278-3529

AAIC企画委員

委員長／桑原 鎮司

委員(50音順)／青木正弘・安藤泰彦・河西栄二・衣笠文彦・佐藤昌宏・高橋綾子・日比野克彦・三輪真弘

日本博

JAPAN CULTURAL EXPO

第48回全国高等学校総合文化祭

清流の国ぎふ総文2024

2024年7月31日(水)～8月5日(月)

第39回国民文化祭 第24回全国障害者芸術・文化祭

「清流の国ぎふ」文化祭2024

2024年10月14日(月・祝)～11月24日(日)

AAIC2023

清流の国ぎふ芸術祭

Art Award IN THE CUBE 2023

入選作家 | Selected Artist

イナガキ モモ

INAGAKI MOMO

ONISHI Yasuaki

大西 康明

OKA Tomomi

岡ともみ

OKUNAKA Akihito

奥中 章人

KITAGAWA Jun

北川 純

ギン トロ ン (SHIBASHI Tomoya + NIKURA Kento)

GengorRaw (石橋友也 + 新倉健人)

KOMAGO Teisutarō

小孫 哲太郎

SHIBATA Michiko

柴田 美智子

YOHAKU

身体企画ユニット ヨハク

CHIDA Yasuhiro

千田 泰広

CHIBA Madoka

千葉 麻十佳

FURUYA Takahisa

古屋 崇久

フロリアン・ガデン + ミキ・オオクubo

florian gadenne + miki okubo

YAMAMOTO Yukyo

山本 雄教

「リアル」のゆくえ

Theme for the third competition: “Where ‘Reality’ Goes”

Gifu Land of Clear Waters Art Festival

ART AWARD IN THE CUBE 2023

2023.4.22(土)～6.18(日)

岐阜県美術館 [入場無料]

IN THE CUBE 2023

INAGAKI MOMO イナガキ モモ

JK in the street.(普通の女子高生)



2006年 愛知県生まれ
愛知県拠点

ただのありのままの女子高生の「いま」を、小さな悲鳴とも言えるつぶやきメッセージと共に表現した記録映像作品。プロジェクターで投影された3壁面から「いま」の「普通」の「J」K」の「リアル」な「日常」の映像と声が、キューブ内いっばいに広がり体感できる。

大西康明 ONISHI Yasuaki

石と柵 岐阜



1979年 大阪府生まれ
大阪府拠点

時間の堆積を象徴する石の形態を借り、河原全体をトレースする作品。銅箔で石を覆い、石を取り出して形を作るシンプルな方法から、大きな塊であり空洞の彫刻を制作する。河原をトレースするという無謀にも思える行為はこの世界を認識する手がかりであり、そこから彫刻を作り出すことがリアリティです。

岡ともみ OKA Tomomi

サカサゴト

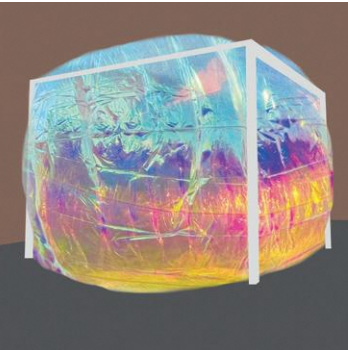


1992年 東京都生まれ
東京都・岡山県拠点

縄文時代の日本では、あの世はこの世のあべこべである、と信じられていた。このような考え方は現在でも「サカサゴト」と呼ばれ、死人が出た際には日常の様々な動作を逆に行う風習として日本各地に残っている。本作品では古時計の盤面は反転し、針は逆回転している。古時計が反転する時、忘れ去られようとしている葬送の風習を思い出すように、内部の映像が再生される。

奥中章人 OKUNAKA Akihito

INTER-WORLD/SPHERE: Over The Cube



1981年 京都府生まれ
京都府拠点

キューブをはみ出すように膨らむ紅色透明風船。中に入ると鑑賞者は床に敷かれた水面の上に寝転がることができる。仰ぎ見ると、たゆたう鏡面世界が広がり、人の存在が、水、空気、光の膜を通じて環境に干渉し揺らめく。光源や角度で色合いが変化する作品の表象は、自己の変動性や多面性、人間の多様性社会を肯定し、また空気や水、光を通じて環境の重要性を暗示している。

清流の国ぎふ芸術祭
Art Award IN THE CUBE 2023

2023年4月、岐阜県では、
想像力溢れる新たな才能の発掘と育成を目的とした企画公募展
「清流の国ぎふ芸術祭 Art Award IN THE CUBE 2023(AAIC2023)」を開催します。

2017年、2020年に続いて3回目となる今回のテーマは「リアル」のゆくえ。

4.8m(幅)×4.8m(奥行)×3.6m(高さ)のキューブ空間を使って、
会場の岐阜県美術館にて作家たちに自由に表現していただきます。

世代、ジャンルを問わず国内外から応募された574作品のうち、
各分野の第一線でご活躍されている審査員7人が厳選した14作品を展示します。

北川純 KITAGAWA Jun

ネットショッピング



1965年 愛知県生まれ
山梨県拠点

ネットショッピングという行為が日常化し、近年のコロナ禍によりその勢いは増加の一途を辿るのみである。巨大ダンボール箱が横転し、地面に沈み込んだ状態がキューブの規定サイズとなっている。その蓋の隙間から鑑賞者が入り出ることができる。内部空間では鑑賞者自らがシュリンク梱包された商品になってしまような体験が待ち受けている。

GengoRaw (石橋友也+新倉健人) ゲンゴロウ (ISHIBASHI Tomoya+NIIKURA Kento)

バベルのランドスケープ



石橋友也:1990年 埼玉県生まれ
新倉健人:1989年 東京都生まれ
東京都拠点

認知科学分野の研究成果に基づき、ランドスケープから文字、文章、声が生まれる光景を作り出す映像インスタレーション作品。

我々の世界認識の根底をなす「日常で目にする風景」と「言語」という一見関連性のないと思われる2つの要素を接続することで、今ここに存在する我々のリアリティに揺さぶりをかける。

小孫哲太郎 KOMAGO Tetsutaro

NAGAMERU



1974年 東京都生まれ
埼玉県拠点

いく本ものテープで遮られた空間。作品自体がフィルタとなって遮られているという、視覚と感覚が混在するような、場所。見るという事と見えるという事が変わりつつある今だからこそ、日常で使われている単純な素材でフィルタを作り、人の視点の内側と外側を、心の感情を、見たり、見られたり、そんな物事を感じてもらいながら楽しんでほしい。

審査員 ※ 50音順

入江経一
建築家/デザインディレクター

岩崎秀雄
アーティスト/研究者/
早稲田大学理工学術院教授、metaPhorest代表

北村明子
ダンサー・振付家/
信州大学人文学部教授

四方幸子
キュレーター・批評家/
美術評論家連盟会長

寺内曜子
美術家

森村泰昌
美術家

山極壽一
総合地球環境学研究所所長

柴田美智子 SHIBATA Michiko

触れるもの、絶対に触れないもの



1955年 東京都生まれ
東京都拠点

箱庭に見立てたキューブの内に、心の物語に現れるたくさんの猿達と、虚構を共有することで知らぬ間に閉じ込められた人間の雛型を置く。物語によって触れ得るリアルと、目に見えない檻によって引き離されてひび割れてゆくリアルは通底するものなのか？

身体企画ユニット ヨハク YOHAKU

スクランブル交差空間 ―不干涉の調和―



秋山きらら:1991年 東京都生まれ
加藤航平:1990年 千葉県生まれ
東京都拠点

価値観の広がった現代で、おそらく全く違う世界を見ているであろう隣人と、ぶつからず、ふれあわず、しかし同じ空間で生きる。それも新たな調和の形。キューブの中を6つの身体が動き、それぞれの1人称視点映像が投影される。個人的な視野を通して捉えたリアルの断片は空間に積層し、不干涉の調和を描き出す。

千田泰広 CHIDA Yasuhiro

Aftereal 6



1977年 神奈川県生まれ
長野県拠点

鑑賞者は作品内部に入り、高速で振動する蛍光糸で作られた空間を体験する。糸は紫外線で発光し、その光の残像のみが知覚される。眼と脳によって作り出された、実在しない体験をする。リアルのゆくえは、知覚不可能な存在に触れ、無目的な思考をするものに委ねられている。

千葉麻十佳 CHIBA Madoka

Melting Hida Mountains

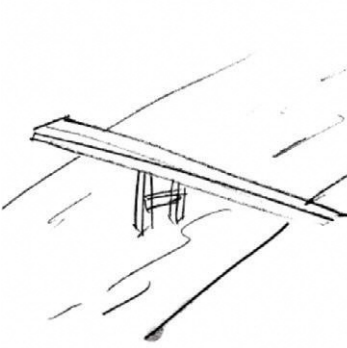


1982年 北海道生まれ
北海道拠点

宇宙空間にある太陽から発する光を使い、火山噴火という地球の活動で生まれた火山石を溶かす。石は溶けるとマグマになる。マグマの再現は石の時間を戻す行為であり、土地の歴史を遡る行為である。映像という虚構のマグマの上に立つことは、今いる場所、自然、地球、宇宙などについて思考を巡らす契機となる。

古屋崇久 FURUYA Takahisa

橋の形



1991年 山梨県生まれ
埼玉県拠点

岐阜県は、言わずと知れた大きな一級河川が何本も流れている土地であり、橋の数も計り知れない。その為この土地では、橋に対する恩恵をより大きく受けているのかもしれない。美術館周辺・岐阜県内を中心に河川等で橋の形をリサーチ。橋の概念、形に関して考察しキューブに落とし込む。

florian gadenne + miki okubo フロリアン・ガデン+ミキ・オオクボ

アンブレラ種



florian gadenne:1987年 /パリ生まれ
miki okubo:1984年 北海道生まれ
北海道 / 岐阜県拠点

生物学で生態系ピラミッドの頂点に立つ敵無しの捕食者を意味する「アンブレラ種」。その適切な保護はその〈傘〉に含まれる生態系全体の保全によってこそ実現する。山・川・森から成る三連水彩画には、イヌワシを頂点とする、岐阜県の豊かな自然の複雑な生物間ネットワークが精緻に描かれている。インスタレーションを通じて、切迫した生態系危機を生きる新しいエコロジー思想を模索する。

山本雄教 YAMAMOTO Yukyo

One room



1988年 京都府生まれ
京都府拠点

床面に至るまでキューブ全体に敷き詰められた一円硬貨は、貨幣というルールから離れ、物質的な存在感が露わになる。そこから見えてくるのは硬貨の「もの」としての魅力か、あるいは離れることで再認識される貨幣のルールか。

またキューブ内に入る時、硬貨を踏むかどうか考えるその一瞬には、それぞれの考え方や価値観が現れるだろう。そしてそんな人々の姿を、硬貨は反射し映し出す。